東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007年10月12日

良い習慣を継続させること

ムスリムの皆様。宗教生活において非常に重要な位置を占める断食、礼拝、ザカート、サダカと共に、イバーダと恵みの月であるラマダン月を私たちは終えました。この聖なる月で、私たちはできる限り断食を守り、宗教上の義務を果たし、礼拝を行なうよう努めてきました。貧しい人々を助け、困難な状況にあり人々に援助しようと努めてきました。たくさんクルアーンを読み、また聞きました。イスラームの精神にふさわしい暮らし方をしようと努めてきました。

親愛なるムスリムの皆様。信者は、イバーダによって、アッラーへの完全な服従によって、いいしもべと、模範的な人間となる可能性を得ます。ラマダーン月はその豊かなイバーダによって、ムスリムが悪から遠ざかり、誤った振る舞いをただし、よい行いをするよう省みる可能性を秘めた聖なる時なのです。ラマダーン月に獲得した素晴らしい習慣や、実現に努めたイバーダを、ラマダーンのあとにも続ける必要があります。イバーダの基本は継続性です。預言者ムハンマドは「アッラーが最も好まれるイバーダは、例えわずかではあっても、継続的であるものです。」とおっしゃられました。この観点から、この月に達成しようと私たちが努めてきたイバーダや、獲得したよい習慣を、ラマダーンのあとにも継続させるよう、努めなければならないのです。

ムスリムの皆様。ラマダーン月で私たちは、忍耐、わかちあい、他を思いやることを学びました。配偶者や友人たち、親戚たちとイフタールの食卓を囲み、一体化、共同といったものを形成してきました。貧しい人、援助を必要としている人に、できる限り応じてきました。私たちのモスクは、集団で行なわれる礼拝によって、また新たな活力を得ました。モスクのドームにも、タクビールやドゥアー、クルアーンの読誦が響きました。個人や集団で獲得したこの素晴らしさが、私たちの暮らしのあらゆる瞬間を包み込むよう、継続させていきましょう。このようにして、私たちの社会でのやすらぎの形成を促進していくのだということも忘れないようにしましょう。

アル・ヒジュラ章第９９節では、「定めの時が訪れるまで、あなたの主に仕えなさい。」とあります。この命令に従うべく、私たちの生涯を通して無数の恵みを与えてくださるアッラーに対し、しもべとしての務めを果たしましょう。ラマダーン以降も、クルアーンを読む習慣を、その意味や解釈を学ぶことへと続けるべく努めましょう。私たちが得た素晴らしい習慣から遠ざかってしまわないようにしましょう。イバーダ、サダカ、善行、悔悟によって清めた私たちの心を、罪によって再び穢してしまわないようにしましょう。

アッラーがこの努力において私たちを助けてくださいますように。